

第4学年 図画工作科 学習指導案 A表現(2)

題材名:「立ち上がれ!ひみつのねん土城」

- 1 日 時 平成29年11月17日(金) 第3校時 10時~11時
2 学 年 第4学年1組 32名
3 場 所 第4学年1組 教室

3つの関わり

題材との関わり

アートのスイッチが入る提案の言葉

粘土はみんなが1年生の時から使っている材料の1つだね。今回は、この土粘土を使ってお城をつくってみよう。お城って大きいよね。どんなふうにつくると立ち上がるかな。立ち上げる「ひみつ(工夫)」を見つけながら、自分だけのひみつのねん土城をつくってみよう!

仲間との関わり

- 作品をつくる途中で、城を立ち上げた方法や自分の思いを友達と交流し、発想をさらに広げさせるようにする。
- 立ち上げたものを道具などを使って城に変えていく工夫をグループで紹介し合い、よさを見つけさせる。

作品との関わり

- 児童が作品をつくっている様子や、友達の工夫のよさを取り入れたりする姿を見取り、座席表に記入し、活動が停滞している児童へ他の児童の工夫を紹介するなどして支援に生かす。
- 作品を紹介する中で、友達の作品のひみつ(工夫)に気付いたことを鑑賞カードを書かせる。

であう

置き方や重ね方を工夫したら粘土が立ち上がったぞ。

さぐる

こんなに大きな形ができたよ!この形から工夫してお城をつくってみよう。

みつける

道具を使うといろんな形に見えるよ。もっとやってみよう。

あrawす

友達の工夫を見たり、聞いたりして真似してみたくなったよ。

あじわう

友達や家族に見せて工夫できたところを伝えたいな。

つくりだす喜びを味わう児童

題材について

本題材は、小学校学習指導要領図画工作第3学年及び第4学年の内容A表現(2)を受け、特にウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」に重点を置いて設定している。

粘土の立ち上がらせ方を工夫し、切り糸やかきベラなどを用いて城をつくるという活動である。作り直しができるという粘土の特徴を生かし、自分が考えた立ち上がらせ方を何度も試すことで、イメージに合った作品をつくり上げることができる。また、はじめからイメージを持つ必要はなく、つくっていくうちに徐々にイメージが広がっていき、友達の工夫を取り入れ作り直したりもでき、自分が表したいことを実現するために、材料や用具の特徴を生かすことや様々な表し方を工夫して表すことができる題材である。

児童の実態について

本学級では、アンケートによると「図画工作科が好きだ」という児童は78%であるが、活動に対して意欲的に取り組む児童が多い。また、図画工作科の学習のときに困ることとして「自分の思ったようにうまくかけない(つくれない)」「こまかくかけない(つくれない)」ということを挙げる児童が数名いる。

第3学年で学習した「ねん土マイタウン」では、楽しく想像を広げながら粘土を伸ばしたり、丸めたりしてできる形を思いのままに表現している児童が多かった。また、図画工作科の学習に取り組む中で友達の表現の面白さを感じ取る児童も増えてきている。関わり合いの場面においても、友達の考えを取り入れながら関わり合う姿が多く見られる。

指導にあたって

児童は、土粘土に触れる機会が非常に少ない。そこで、土粘土に触れる時間を十分にとり、「丸める」、「伸ばす」、「平らにする」、「ちぎる」などの方法で思ったような形をつくることのできる楽しさを感じながら活動させる。

実際のような種類の城の写真や氷山や竹などの自然物の写真を見せ、大きい城のイメージを共有し、どのくらいの大きさが「立つ」ということなのか縦や横の長さのイメージをさせる。また、立ち上がらせた後の城のデザインを考えながら取り組めるようにする。

「丸める」、「棒づくり」、「ひもづくり」など、基本的な立ち上げるための表現方法を考えさせ、それらの表現方法を基に、立ち上げるための多様な表現方法をつくりだせるようにする。そして、道具を使って立ち上げた形を、さらに自分の思いのこもった城になるようにデザインさせる。また、粘土は塊に戻して何度でも作り直せることを示し、失敗してもやり直させたり、いろいろな方法を試させたりする。作品をつくる途中で、城を立ち上げた方法や自分の思いなどを友達と交流させる。

作品のイメージづくりでは、はじめから形やイメージを固めてしまうのではなく、つくりながら想像をふくらませていくようにする。つくる途中で工夫点や表現の面白さなどを共有できるように、班ごとに4人の机を向かい合わせにし、常に友達の活動を見ながら作業できるようにすることで、友達と見方や感じ方を伝え合いながら、自分の表したい形やイメージを広げられるようにする。

題材の目標及び評価規準

題材の目標

- 粘土を立ち上げ, いろいろな方法で形を変えて立体に表すことを楽しむことができる。【関・意・態】
- 板や棒状などの粘土をバランスよく立てる方法を試し, 生まれた形からつくりたいものを考えることができる。【発・構】
- 粘土をバランスよく立ち上げ, さらにつくり変えるために道具などを使い工夫することができる。【技】
- 友達と作品を見せ合い, 互いの工夫点や活動の楽しさや面白さを感じることができる。【鑑】

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
・粘土を立ち上げ, いろいろな方法で形を変えて立体に表すことを楽しんでいる。	・板や棒状などの粘土をバランスよく立てる方法を試し, 生まれた形からつくりたいものを考えている。	・粘土をバランスよく立ち上げ, さらにつくり変えるために道具などを使い工夫している。	・友達と作品を見せ合い, 互いの工夫点や活動の楽しさや面白さを感じている。

指導と評価の計画

(全4時間)

次	学 習 内 容(時間)	評 価					
		関	発	創	鑑	評価規準	評価方法
第 一 次	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">土ねん土を使って, いろいろな形から, 立ち上げてみよう。</div> ○土粘土に触れる時間を十分にとり, 土粘土を「丸める」, 「伸ばす」などの方法で立ち上がる形をつくる。(1)	○	◎			○土粘土に慣れ親しみ, いろいろな方法で形を変えることを楽しんでいる。 ◎板や棒状などの粘土をバランスよく立てる方法を試しながら, つくりたいものを考えている。	行動観察, 発言 行動観察, 発言
	であう						

<p>第二次</p>	<p>ねん土を立ち上げて、ひみつのねん土じょうをつくろう。</p> <p>○方法を工夫して粘土を立ち上げる。(1)【本時】2/4</p> <p>さぐる</p> <p>○立ち上げた粘土を、道具を使って形を変えてひみつのねん土城をつくる。(1)</p> <p>みつける</p> <p>あらわす</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎板や棒状などの粘土をバランスよく立てる方法を試しながら、生まれた形からつくりたいものを考えている。</p> <p>○粘土をバランスよく立ち上げる方法を工夫してつくっている。</p> <p>◎粘土をバランスよく立ち上げ、さらにつくり変えるために道具などを使い工夫している。</p>	<p>行動観察、発言</p> <p>作品、発言</p> <p>行動観察、作品、作品カード</p>
<p>第三次</p>	<p>友達の工夫やよいところを見つけよう。</p> <p>○友達のよいところや工夫点を鑑賞カードに書く。(1)</p> <p>あじわう</p>			<p>◎</p>	<p>◎友達と作品を見せ合い、互いの工夫点や活動の楽しさや面白さを感じている。</p>	<p>鑑賞カード</p>

本時の展開

(1) 本時の目標 板や棒状の粘土をバランスよく立てる方法を工夫し、生まれた形から立ち上げ方を考えることができる。

(2) 準備物

〔指導者〕 土粘土, 粘土板, 粘土べら, のし棒, 電子黒板, 写真

〔児童〕 濡れ雑巾

(3) 展開(本時2/4)

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	主 な 評 価 規 準 【観点】(方法)
1 「城」のイメージを想起し、本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習で表現したことを想起させ、これからどんなひみつの粘土城を立ち上げていきたいかイメージさせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ◎ バランスよく立ち上げるために、ねん土を立ち上げる方法を考えよう。 </div>		
<p>2 粘土を道具や手を使って板状や棒状などにし、立ち上げる方法を考える。</p> <p>・自分の作品の工夫をペアや全体で紹介し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【仲間同士と関わり合う場面】 友達と作品を見合い、見てほしい工夫を交流し合う。 </div> <p>「わたしは、お城を立ち上げるために太くて長い粘土の柱を並べて、工夫しました。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> どうやると粘土が立ち上がることができるか試させながら立ち上げ方を考えさせる。 粘土が足りなくなった児童のために、予備の粘土を用意しておく。 <p>〈C児への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時で学習した表現の仕方や城や自然物の写真などを見るよう促し、イメージが広がるように支援する。 <p>・作品をつくる途中で、城を立ち上げた方法や自分の思いを友達と交流させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○このお城を立ち上げるために、どんな形にして工夫をしましたか。 ○わたしは、お城を立ち上げるために、～して工夫しました。 </div> <p>・全体で交流する際には、電子黒板を使用し、様々な作品を紹介させ、児童の発想を広げさせる。</p>	<p>【発想や構想の能力】 板や棒状などの粘土をバランスよく立てる方法を試しながら、生まれた形からつくりたいものを考えている。 (行動観察 発言)</p>

<p>3 友達の工夫を参考にし てつくり直したり、手を加 えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を参考にする中で、自分のイメージをさらに膨らませ、表現する時間を確保する。 ・一人一人が表現している形から、どのように立ち上げればよいかイメージを広げ、想像力を働かせて見取る。 <p><C 児への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアや全体で紹介し合ったことを想起させ、方法を絞って選ばせるようにする。 ・活動が停滞している児童には、電子黒板に映し出した写真を見るよう促し、支援する。 	<p>【創造的な技能】 粘土をバランスよく立ち上げる方法を工夫してつくっている。 (作品, 発言)</p>
<p>4 本時のまとめをする。</p>		
<p>児童のまとめ例 おしろを立ち上げるために、太くて長いねん土の柱をならべて、工夫できました。 おしろを立ち上げるために、ねん土を平らにして丸めて立ち上げるようにして工夫しました。</p>		

(4)板書計画

11/17 **立ち上がれ！ひみつのねん土城**^{じょう}

○このおしろを立ち上げるために、どんな工夫をしましたか。

○わたしはおしろを立ち上げるために、～して工夫しました。

いろいろ考えよう

いろいろやって工夫しよう

㊦ ねん土を立ち上げる方法を考え、バランスよく立ち上げよう。

(立ち上げる方法)

写真

- ・板を丸める

写真

- ・ぼうにする
- ・ちぎる

写真

- ・ひもにする
- ・まく

写真(城)

- ・形が丸い
- ・がんじょうな感じ

写真(城)

- ・先がとがっている
- ・とても大きい

写真(冰山)

写真(竹)